

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-275220

(P2007-275220A)

(43) 公開日 平成19年10月25日(2007.10.25)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A61B 1/00 (2006.01)	A61B 1/00 300Y	2G043
G02B 23/26 (2006.01)	G02B 23/26 A	2G059
A61B 1/04 (2006.01)	A61B 1/04 370	2H040
G01N 21/17 (2006.01)	G01N 21/17 620	4C061
G01N 21/64 (2006.01)	G01N 21/64 Z	
審査請求 未請求 請求項の数 19 O L (全 15 頁)		

(21) 出願番号 特願2006-104029 (P2006-104029)
 (22) 出願日 平成18年4月5日(2006.4.5)

(71) 出願人 000000527
 ペンタックス株式会社
 東京都板橋区前野町2丁目36番9号
 (74) 代理人 100078880
 弁理士 松岡 修平
 (72) 発明者 佐野 浩
 東京都板橋区前野町2丁目36番9号 ペンタックス株式会社内
 Fターム(参考) 2G043 AA03 BA16 EA01 FA01 GA02
 GB19 HA01 HA05 KA09 NA05
 2G059 AA05 BB12 CC16 EE07 FF02
 GG01 JJ11 JJ17 JJ21 PP04
 PP06

最終頁に続く

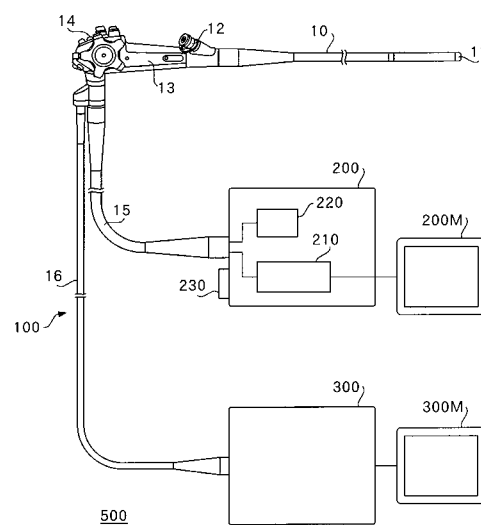
(54) 【発明の名称】 共焦点内視鏡システム

(57) 【要約】

【課題】共焦点観察画像が持つ高倍率や高解像度と言った特徴を活かしつつも計測情報の表示を可能とする共焦点内視鏡システムを提供すること。

【解決手段】共焦点内視鏡システムは、電子内視鏡とプロセッサから構成され、電子内視鏡は、照明光を生体組織に対して照射して、該生体組織からの光のうち特定の位置からの光のみを抽出する共焦点光学ユニットを有しており、プロセッサは、共焦点光学ユニットからの光に基づき、2次元画像データを生成する2次元画像生成部を少なくとも有する画像処理手段と、表示画像に所定の計測情報が少なくとも一つ表示されるように、画像データに計測情報を重畳する計測情報合成手段とを有し、計測情報合成手段によって計測情報が重畳された合成画像データを外部に出力するように構成されており、計測情報合成手段は表示画像に含まれる計測情報の表示態様を共焦点光学ユニットの撮像範囲に基づいて決定する構成にした。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電子内視鏡とプロセッサから構成され、
前記電子内視鏡は、
照明光を生体組織に対して照射して、該生体組織からの光のうち特定の位置からの光のみを抽出し、前記プロセッサに伝送する共焦点光学ユニットを有し、
前記プロセッサは、
前記共焦点光学ユニットからの光に基づき、2次元画像に関する画像データを生成する2次元画像生成部を少なくとも有する画像処理手段と、
表示画像に所定の計測情報が表示されるように、前記画像処理手段から出力された前記画像データに計測情報を重畳する計測情報合成手段と、を有し、
前記計測情報合成手段によって前記計測情報が重畳された合成画像データを外部に出力するよう構成され、
前記計測情報合成手段は、前記表示画像に含まれる計測情報の表示態様を、前記共焦点光学ユニットの撮像範囲に基づいて決定していることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、
前記計測情報合成手段は、前記表示画像に含まれる計測情報の表示態様を、前記共焦点光学ユニットの倍率および前記共焦点光学ユニットにより形成される撮像面における像高に基づいて決定していることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、
前記電子内視鏡は、
前記共焦点光学ユニットを該ユニットの光軸方向に沿って移動させるユニット移動手段と、
前記ユニット移動手段の移動量を検出する移動量検出手段をさらに有し、
前記画像処理手段は、前記 2 次元画像に関する画像データおよび前記移動量検出手段からの検出結果に基づいて、3次元画像に関する画像データを生成する3次元画像生成部を有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、
前記 3 次元画像において観察可能な深さを設定する観察深さ設定手段をさらに有し、
前記 3 次元画像生成部は、前記 3 次元画像が前記観察深さ設定手段により設定された深さを有するように、前記 3 次元画像に関する画像データを加工することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 5】

請求項 3 または請求項 4 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、
前記画像処理手段は、前記 3 次元画像に関する画像データに基づき、所定の断面により切断された断面画像に関する画像データを生成する断面画像生成部を有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、
前記 3 次元画像における前記所定の断面の位置を設定する断面位置設定手段をさらに有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 7】

請求項 2 から請求項 6 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、
前記画像処理手段と前記計測情報合成手段の間に配設され、前記画像処理手段から出力された各画像データのうち前記計測情報合成手段に出力する画像データを択一的に選択する出力画像制御手段を有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記出力画像制御手段によって択一的に選択される画像データを指示する画像データ選択手段をさらに有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 9】

請求項 7 または請求項 8 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記出力画像制御手段に計測情報の表示の有無を指示する計測情報表示指示手段をさらに有し、

前記出力画像制御手段は、前記計測情報表示指示手段から計測情報を表示するという制御信号を受信すると択一的に選択した前記画像データを前記計測情報合成手段に出力し、前記計測情報表示指示手段から計測情報を表示しないという制御信号を受信すると択一的に選択した前記画像データを前記計測情報合成手段を介さずに外部に出力することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

10

【請求項 10】

請求項 1 から請求項 9 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

外部に出力される画像データに所定の倍率でデジタルズーム処理を施す、デジタルズーム手段をさらに有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 11】

請求項 10 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記所定の倍率を設定する倍率設定手段をさらに有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

20

【請求項 12】

請求項 10 または請求項 11 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

表示画像における前記計測情報は、前記所定の倍率に対応した単位を表していることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 13】

請求項 1 から請求項 12 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記ユニット移動手段の移動ピッチを設定するピッチ設定手段をさらに有することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 14】

請求項 1 から請求項 13 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記表示画像における前記計測情報の表示態様に関する操作をするための操作手段をさらに有し、

前記計測情報合成手段は、前記操作手段における操作に応じて前記画像データに所定の計測情報を重畳することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

30

【請求項 15】

請求項 1 から請求項 14 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記計測情報は、スケールであることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 16】

請求項 1 から請求項 14 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記計測情報は、グリッドであることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

40

【請求項 17】

請求項 14 を引用する請求項 15 に記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記操作には、前記表示画像において表示される前記スケールの数に関する設定、前記スケールの回転、前記スケールの移動、の少なくとも一つが含まれることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【請求項 18】

請求項 1 から請求項 17 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記共焦点光学ユニットは、レーザー光を前記生体組織に対して照射し、前記特定の位置からの蛍光のみを抽出することを特徴とする共焦点内視鏡システム。

50

【請求項 19】

請求項 1 から請求項 18 のいずれかに記載の共焦点内視鏡システムにおいて、

前記共焦点光学ユニットは、前記照明光を前記生体組織に対して二次元で移動させる走査型であることを特徴とする共焦点内視鏡システム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、体腔内に挿入され、該体腔内の生体組織の断層像を高倍率で観察することができる共焦点内視鏡システムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、被検者の体腔内に挿入したプローブにより生成された画像データに、計測情報としてスケールデータを重畳して単一の画像として表示させることにより、術者の診療の便宜に資することを目的とする装置が提案されている。該提案としては、以下の特許文献 1 がある。特許文献 1 では、体腔内からの反射超音波に基づき生成された該体腔内の画像上にスケールを表示させる超音波診断装置が開示されている。

【0003】

【特許文献 1】特許第 3396165 号公報

【0004】

近年、通常の観察光学系によって得られる像よりも高倍率かつ高解像度な像を観察することができる共焦点光学系を備えた、いわゆる共焦点内視鏡システムが知られている。共焦点内視鏡システムは、体腔内の生体組織に対して照明光を照射する。そして、生体組織からの光のうち該システムの焦点位置と共役の位置にあるピンホールを介した光のみを受光し、その強度に応じた信号に基づいて、従前よりも遙かに高倍率かつ高解像度な画像を観察することが可能になる。

【0005】

また、共焦点内視鏡システムは、必要に応じて光軸方向（つまり観察部位の深さ方向）における焦点位置を微小にずらすことができ、生体組織表面から 250 μm 程度までの深さにある組織の観察を行うことができる。このように照明光の照射範囲はずらすことなく焦点位置を深さ方向にシフトすることにより得られた複数枚の観察画像に基づき、さらに該照射範囲における画像を 3 次元表示したいという要望がある。

【0006】

上記のような共焦点内視鏡システムが実用化されるにあたって、術者がより迅速かつ正確に画像から患部を特定するためには、患部と想定される生体組織の一部のサイズを明確に計測できることや生体組織の深さ方向の断面像が要求される。しかし、特許文献 1 の開示内容は、あくまで構成および使用態様が極めて特殊な超音波診断装置にのみ好適に使用されるものである。そのため、特許文献 1 に記載されているスケール表示が可能な従来のシステムを、高倍率かつ高解像度な画像を提供することができ、さらには 2 次元表示や 3 次元表示といった表示態様を任意に切り替えることができる共焦点内視鏡システムにそのまま適用することはできず、さらなる改善が求められていた。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明は上記の事情に鑑み、共焦点光学ユニットを介して得られた画像に対して、該画像が持つ高倍率や高解像度と言った特徴を活かし、該画像の表示態様に対応した計測情報の表示や 3 次元画像の構築を可能とする共焦点内視鏡システムを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記の課題を解決するため、本発明に係る共焦点内視鏡システムは、電子内視鏡とプロ

10

20

30

40

50

セッサから構成され、電子内視鏡は、照明光を生体組織に対して照射して、該生体組織からの光のうち特定の位置からの光のみを抽出し、プロセッサに伝送する共焦点光学ユニットを有しており、プロセッサは、共焦点光学ユニットからの光に基づき、2次元画像に関する画像データを生成する2次元画像生成部を少なくとも有する画像処理手段と、表示画像に所定の計測情報が少なくとも一つ表示されるように、画像処理手段から出力された画像データに計測情報を重畳する計測情報合成手段と、を有し、しかも計測情報合成手段によって計測情報が重畳された合成画像データを外部に出力するように構成されており、計測情報合成手段は、表示画像に含まれる計測情報の表示態様を、共焦点光学ユニットの撮像範囲に基づいて決定していることを特徴とする。

【0009】

10

請求項1に記載の発明によれば、共焦点光学ユニットの光学性能に応じた計測情報を画像に重畳することができる。つまり、共焦点光学ユニットによって得られた高倍率かつ高解像度な画像に対応した計測情報を表示させることができる。

【0010】

より具体的には、計測情報合成手段は、表示画像に含まれる計測情報の表示態様を、共焦点光学ユニットの倍率および共焦点光学ユニットにより形成される撮像面での像高に基づいて決定する（請求項2）。

【0011】

請求項3に記載の共焦点内視鏡システムによれば、電子内視鏡に、共焦点光学ユニットを該ユニットの光軸方向に沿って移動させるユニット移動手段と、該ユニット移動手段の移動量を検出する移動量検出手段を設けることができる。これにより、画像処理手段は、2次元画像に関する画像データおよび移動量検出手段からの検出結果に基づいて、3次元画像に関する画像データを生成する3次元画像生成部を有することができる。

20

【0012】

請求項4に記載の共焦点内視鏡システムによれば、3次元画像において観察可能な深さを設定する観察深さ設定手段をさらに設けることができる。これにより、3次元画像生成部は、3次元画像が観察深さ設定手段により設定された深さを有するように、3次元画像に関する画像データを加工することができる。

【0013】

さらに請求項5に記載の共焦点内視鏡システムによれば、画像処理手段は、3次元画像に関する画像データに基づき、所定の断面により切断された断面画像に関する画像データを生成する断面画像生成部を有することができる。

30

【0014】

請求項6に記載の共焦点内視鏡システムによれば、所定の断面位置を設定する断面位置設定手段をさらに有することが望ましい。

【0015】

請求項7に記載の共焦点内視鏡システムによれば、画像処理手段と計測情報合成手段の間に配設され、画像処理手段から出力された各画像データのうち計測情報合成手段に出力する画像データを択一的に選択する出力画像制御手段を有する。

【0016】

40

請求項8に記載の共焦点内視鏡システムによれば、出力画像制御手段によって択一的に選択される画像データを指示する画像データ選択手段をさらに有することが望ましい。

【0017】

また、請求項9に記載の共焦点内視鏡システムによれば、出力画像制御手段に計測情報の表示の有無を指示する計測情報表示指示手段をさらに設けることができる。そして、計測情報表示指示手段から計測情報を表示するという制御信号を受信すると択一的に選択した画像データを計測情報合成手段に出力し、計測情報表示指示手段から計測情報を表示しないという制御信号を受信すると択一的に選択した画像データを計測情報合成手段を介さず外部に出力するように、出力画像制御手段を構成することができる。

【0018】

50

請求項１０に記載の共焦点内視鏡システムによれば、外部に出力される画像データに所定の倍率でデジタルズーム処理を施す、デジタルズーム手段をさらに有することが望ましい。

【００１９】

請求項１１に記載の共焦点内視鏡システムによれば、上記所定の倍率を設定する倍率設定手段をさらに設けることにより、術者等の利便性の向上が図れる。

【００２０】

請求項１２に記載の共焦点内視鏡システムによれば、表示画像における計測情報は、上記所定の倍率に対応した単位を表すように構成される。

【００２１】

術者等の便宜に資する観点から、例えば、ユニット移動手段の移動ピッチを設定するピッチ設定手段をさらに設けることも可能である（請求項１３）。

【００２２】

請求項１４に記載の共焦点内視鏡システムによれば、表示画像における計測情報の表示態様に関する操作をするための操作手段をさらに有し、計測情報合成手段は、操作手段における操作に応じて前記画像データに所定の計測情報を重畳することが望ましい。

【００２３】

上記の計測情報としては、スケールやグリッドが例示される。計測情報としてスケールを採用する場合、上記操作には、例えば、表示画像において表示されるスケールの数に関する設定、スケールの回転、スケールの移動、の少なくとも一つが含まれる。

【００２４】

請求項１８に記載の共焦点内視鏡システムによれば、共焦点光学ユニットは、レーザー光を生体組織に対して照射し、特定の位置からの蛍光のみを抽出するように構成することができる。

【００２５】

また、請求項１９に記載の共焦点内視鏡システムによれば、共焦点光学ユニットは、照明光を生体組織に対して二次元で移動させる走査型のユニットとして構成しても良い。

【発明の効果】

【００２６】

以上のように本発明に係る共焦点内視鏡システムによれば、共焦点内視鏡システムにより得られる観察画像が持つ高倍率や高解像度といった特徴に対応した計測情報の表示を行うことができる。また、本発明によれば、上記観察画像に関する、次元の違いといった表示態様の变化にも柔軟に対応した計測情報の表示を行うことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００２７】

図１は、本実施形態の共焦点内視鏡システム５００の構成を示す図である。共焦点内視鏡システム５００は、体腔内に挿入されて当該体腔内の画像を撮像する電子内視鏡１００、電子内視鏡１００が接続される第一プロセッサ２００、第二プロセッサ３００、各プロセッサ２００、３００に接続され、各プロセッサ２００、３００から出力される画像を表示する第一モニタ２００Ｍ、第二モニタ３００Ｍを有する。

【００２８】

電子内視鏡１００は、例えばＣＣＤなどの固体撮像素子を用いて体腔内の生体組織を撮像する通常観察機能と、共焦点光学系により生体組織内部の画像情報を取得する共焦点観察機能とを有している。電子内視鏡１００は、可撓性を持ち体腔内に挿入される挿入部可撓管１０およびその先端１１、鉗子などの各種処置具がセットされる処置具挿入口１２、術者が電子内視鏡１００操作時に把持する把持部１３、術者が電子内視鏡１００を操作する為の各種ボタンやレバーが配置された内視鏡側操作部１４、各プロセッサ２００に接続される第一ケーブル１５、第二ケーブル１６を有する。

【００２９】

第一プロセッサ２００は、共焦点観察時に使用されるものである。第一プロセッサ２０

10

20

30

40

50

0 は、画像形成・処理部 210 と光源部 220、操作部 230 を有する。第二プロセッサ 300 は、通常観察時に使用されるものである。なお、操作部 230 は、図 1 では、フロントパネルに配設されている各種スイッチ等を想定しているが、キーボードやマウスといった外部入力機器であっても良い。

【0030】

図 2 は、電子内視鏡 100 の可撓管先端 11 の内部の構成を示した概略構成図である。可撓管先端 11 は、共焦点光学ユニット 50 と通常観察ユニット 90 を有する。共焦点光学ユニット 50 は、シングルモード光ファイバ（以下、単に光ファイバという）20、対物光学系 30、カバーガラス 31、圧電素子 40A、40B、圧電素子駆動部 40C を有する。光ファイバ 20、対物光学系 30、カバーガラス 31、圧電素子 40A、40B は、円筒状の枠体 61 に保持されている。枠体 61 は、該枠体 61 の径よりも若干大きめの径を持つ円筒状の金属パイプ 63 内にスライド自在に保持されている。

10

【0031】

なお、図 2 において、対物光学系 30 の光軸方向を Z 方向、Z 方向と直交し、かつ互いに直交する方向をそれぞれ X 方向、Y 方向とする。つまり、X 方向と Y 方向は光軸に直交する面（X - Y 面）を規定する。

【0032】

光ファイバ 20 は、第一プロセッサ 200 の発光部 220 と対物光学系 30 との間に配設される導光部材である。圧電素子 40A、40B は、光ファイバ 20 の射出側端面 21 近傍であって、X - Y 面内において変位する方向が互いに直交する二方向（ここでは X 方向と Y 方向）となるように配設されている。圧電素子駆動部 40C は、信号線 40D を介して第一プロセッサ 200 から伝送された制御信号に基づき、各圧電素子 40A、40B に所定の電圧を印加する。各圧電素子 40A、40B は、電圧が印加されると、それぞれ X 方向や Y 方向に光ファイバ 20 の射出側端面 21 近傍を押圧し、各方向へ移動させる。これにより、射出側端面 21 は、実質的に X - Y 平面上を移動する。なお、厳密には、射出側端面 21 の軌跡は、射出側端面 21 から照射される光束の主光線の延長線と対物光学系 30 の光軸との交点を曲率中心とする曲面となる。しかし、射出側端面 21 の移動量は微量であるため、該曲面は実質的に X - Y 面と略一致すると考えられる。射出側端面 21 から照射される光束は、該移動に伴って生体組織 S の表面を 2 次元に走査する。つまり、本実施形態では、共焦点光学ユニット 50 として、走査型のユニットを想定している。

20

30

【0033】

また、枠体 61 の外壁 62 と金属パイプ 63 の内壁 64 間には、圧縮コイルバネ 70 と形状記憶合金 80 が取り付けられている。外壁 62 と内壁 64 は、Z 方向に略直交する（つまり、X - Y 平面上にある）。形状記憶合金 80 は、常温下で外力を加えると変形し、一定温度以上に加熱されると記憶している状態に収縮する機能を有する。より具体的には、形状記憶合金 80 は、加熱により Z 方向に収縮するように配設されている。圧縮コイルバネ 70 は、自然長から圧縮された状態で取り付けられている。つまり、圧縮コイルバネ 70 は、枠体 61 を可撓管先端前方（カバーガラス 31 に近づく方向）に付勢した状態にある。

【0034】

印加電圧により加熱作用を受けると、形状記憶合金 80 は収縮する。形状記憶合金 80 の収縮する力は、圧縮コイルバネ 70 の張力よりも大きく設計されている。よって、枠体 61 は、カバーガラス 31 と逆の方向、換言すれば内視鏡先端部後方（カバーガラス 31 から離れる方向）にスライドする。これにより、光ファイバ 21 から照射され、対物光学系 30 を介した光束の集光位置が Z 方向に若干ずれる。つまり、Z 方向の走査が可能になる。

40

【0035】

共焦点内視鏡システム 500 において、共焦点観察ユニット 50 を用いた生体組織 S の画像形成に関する処理について具体的に説明する。光ファイバ 20 は、発光部からのレーザー光束を電子内視鏡 100 内に導き、射出側端面 21 から照射する。つまり、光ファイ

50

バ 2 0 の射出側端面 2 1 は二次的な点光源として機能する。上述したように、圧電素子 4 0 A、4 0 B により、射出側端面 2 1 は、実質的に X - Y 面上を移動する。レーザー光は、励起光として作用する波長を有する。

【 0 0 3 6 】

実質的に X - Y 面上を移動中の射出側端面 2 1 から照射された光束は対物光学系 3 0、カバーガラス 3 1 を介して生体組織 S に集光する。ここで、カバーガラス 3 1 は生体組織 S に当接されている。レーザー光によって照射されたことにより生体組織 S で生じた蛍光は、カバーガラス 3 1、対物光学系 3 0、射出側端面 2 1 の順に戻る。そのため、対物光学系 3 0 と光ファイバ 2 0 は、対物光学系 3 0 の前側焦点位置に射出側端面 2 1 が位置するように配置される。つまり、実質的に X - Y 面内の所定位置にある射出側端面 2 1 には、該所定位置にある射出側端面 2 1 から照射され、生体組織 S における射出側端面 2 1 と共役な集光点からの蛍光のみが入射するように配置構成される。これにより、射出側端面 2 1 は、二次的な点光源として機能するだけでなく、生体組織 S における照射光束の集光点からの蛍光のみを抽出する共焦点ピンホールとしても機能する。

10

【 0 0 3 7 】

射出側端面 2 1 に入射した反射光は、光ファイバ 2 0 を介して第一プロセッサ 2 0 0 に導かれる。そして該反射光は、例えばファイバカプラ等によって発光部 2 2 0 からの光と分離され、第一プロセッサ 2 0 0 の画像形成・処理部 2 1 0 により受光される。画像形成・処理部 2 1 0 は、順次受光する反射光に基づいて点像を形成し、該点像を光の走査位置に対応する位置に並べることにより 1 フレーム分の画像（静止画像）を形成する。本実施形態の共焦点内視鏡システム 5 0 0 では、共焦点光学ユニット 5 0 により形成される画像の表示態様としては、2 次元表示、3 次元表示、さらには 3 次元表示に基づき任意の断面状態を表示する断面表示がある。画像形成・処理部 2 1 0 は、操作部 2 3 0 からの指示に対応する表示態様で画像が表示されるように所定の処理を施した後、モニタ 2 0 0 M に出力する。術者は、モニタ 2 0 0 M に表示される、高倍率、高解像度な画像に基づき、生体組織の診断等を行う。

20

【 0 0 3 8 】

なお、図 2 に示す通常観察ユニット 9 0 は、図示しないものの、第二プロセッサ 3 0 0 から伝送される白色光を生体組織 S に照射させる対物光学系や照射された生体組織を撮像する撮像素子等を備える。

30

【 0 0 3 9 】

通常観察時、第二プロセッサ 3 0 0 から照射された光は、対物光学系を介して生体組織 S を照明する。生体組織 S からの反射光は、通常観察ユニット 9 0 内の撮像素子で受光される。該撮像素子は、受光した光に対応する画像信号を第二プロセッサ 3 0 0 に送信する。第二プロセッサ 3 0 0 は、該画像信号に所定の画像処理を施した後、モニタ 3 0 0 M に該画像信号を出力し、撮像画像を表示させる。

【 0 0 4 0 】

次に本発明の主たる特徴である、共焦点内視鏡システム 5 0 0 における、共焦点観察画像に対するスケール表示処理について詳説する。

【 0 0 4 1 】

図 3 は、共焦点内視鏡システム 5 0 0 におけるスケール表示処理を説明するためのブロック図である。なお、図 3 において、各処理部やメモリ 2 1 1 ~ 2 1 9 は図 1 に示す画像形成・処理部 2 1 0 に含まれるものとし、各設定部や選択部 2 3 0 A ~ 2 3 0 G は図 1 に示す操作部 2 3 0 に含まれるものとする。

40

【 0 0 4 2 】

まず 2 次元の共焦点観察画像に関するスケール表示処理を説明する。生体組織 S からの反射光であって共焦点光学ユニット 5 0 から伝送された光は、プロセッサ 2 0 0 の前段画像処理部 2 1 1 内にあるイメージセンサ（不図示）により受光される。そして上記の通り、順次受光する反射光に基づいて点像を形成し、該点像を光の走査位置に対応する位置に並べることにより 1 フレーム分の画像（2 次元画像）を生成する。生成された 2 次元画像

50

に関するデータ（２次元画像データ）は、２次元画像用記憶部２１２に一時的に記憶される。

【００４３】

出力画像制御部２１６は、画像形成・処理部２１０を構成する複数の処理部を統括して制御する。また、出力画像制御部２１６は、術者等の操作によって、画像選択部２３０Ｅから送信される制御信号に従い、外部に出力する画像の表示態様の切換を行う。つまり、ここでは、術者等は、２次元の共焦点観察画像が表示されるように、画像選択部２３０Ｅを操作していることになる。２次元の共焦点観察画像を表示することを指示する制御信号を受信している場合、出力画像制御部２１６は、所定のタイミング、例えばモニタ２００Ｍの周期に対応して２次元画像用記憶部２１２から２次元画像データを読み出して、スケール合成手段２１７に出力する。 10

【００４４】

スケール合成部２１７は、出力画像制御部２１６を介して２次元画像データが入力すると、スケール用メモリ２１８からスケールデータを読み出す。そして、２次元画像データにスケールデータを重畳してスケールが合成された合成画像データを生成する。ここで、スケール用メモリに格納されているスケールデータは、共焦点観察画像の撮像範囲に基づいて予め決定されたサイズを持つスケールに関するデータである。該撮像範囲は、共焦点光学ユニット５０の倍率および撮像面における像高に基づき決定される。従って、本実施形態においてモニタ２００Ｍに実際に表示される画像中にあるスケールは、該画像、つまり共焦点光学ユニット５０によって得られる画像に好適なサイズを備えている。 20

【００４５】

なおスケール合成部２１７には操作部２３０の一部をなすスケール設定部２３０Ｆが接続されている。術者等は、スケール設定部２３０Ｆを操作することにより、２次元画像におけるスケールの表示個数や表示位置を設定することができる。

【００４６】

合成処理により生成された合成画像データは、次いでデジタルズーム部２１９に入力する。デジタルズーム部２１９は、術者等がズーム設定部２３０Ｇを介して設定した所定の倍率まで拡大、縮小して画像が表示されるようにズーミング処理を行う。なお、ズーミング処理はデジタルカメラ等の分野において周知の処理であるためここでの詳説は省略する。デジタルズーム部２１９から出力された合成画像データは、モニタ２００Ｍに出力され、表示される。このように、スケール重畳後の画像データにズーミング処理を施すことにより、スケール自体も画像の表示倍率に対応して拡大あるいは縮小される。よって、ズームの如何にかかわらず精確な計測が可能になる。 30

【００４７】

図４（ａ）は、上記のスケール表示処理を経てモニタ２００Ｍに表示された２次元画像の一例を簡略化して示す図である。図４（ａ）に示す２次元画像では、二つのスケールＳ１、Ｓ２が表示されている。なお、術者等は、モニタ２００Ｍに表示された２次元画像を観察しつつ、スケール設定部２３０Ｆを操作することにより、各スケールＳ１、Ｓ２に関し、表示位置の移動、回転、表示個数の変更を実行することが可能である。例えば、図４（ａ）に示すスケールＳ１が初期状態（つまり、スケール設定部２３０Ｆを介して何らの操作もなされなかった状態）での表示態様と仮定すると、スケールＳ２は、スケール設定部２３０Ｆを介して移動および回転操作が実行された後の表示態様である。 40

【００４８】

なお、スケールＳ１、Ｓ２はいずれも互いに直交する二本の軸から構成されているが、一本の軸のみからなる構成であっても良い。

【００４９】

また、本実施形態の共焦点観察画像に表示されるスケールは、単位の異なる複数種類の目盛りを有する。ここで、共焦点観察画像の視認性を維持しつつも、生体組織の精確な採寸を可能とする必要がある。そこで、本実施形態のスケールデータは、デジタルズームの倍率に応じて採寸に好適な目盛りが表示されるように、各種類の目盛りの長さと太さが異 50

なるように構成されている。

【0050】

具体的には、目盛りの長さと太さを大きな単位の目盛りから順に短くかつ細く設定しておく。これにより、単位の小さな目盛りは、低倍率時には表示されているものの肉眼視できない状態にあるが、高倍率時には画像とともに拡大表示される。これに対し、単位の大きな目盛りは、倍率が高くなるにつれ観察画面から外れていくため、観察の妨げにはならない。

【0051】

例えば、図4(a)がモニタ200Mに表示されている場合に、術者等がズーム設定部230Gを介してデジタルズーム倍率を上げて、図4(a)中領域pが拡大表示されたとする。領域pの拡大表示を図4(b)に示す。

10

【0052】

上記の通り、スケールデータ自体は、異なる複数種類の単位の目盛りを有している。従って、厳密には、デジタルズーム倍率の如何を問わず、いずれの単位の目盛りも表示されることになる。しかし、図4(a)に示すように、低倍率で画像が表示されている場合、スケール(ここではS2)は、あたかも大きい単位の目盛り(例えば、L1、L2)のみが付されているような表示状態にある。つまり、目盛りL1、L2よりも小さな単位の目盛りは視認されない。そして、図4(b)に示すように、高倍率で画像が表示されるにつれて、スケール自体も拡大表示される。これにより、大きい単位の目盛りL1、L2間に、小さな単位の目盛りL11~L19が視認可能な状態で表示されるようになる。

20

【0053】

なお、上記説明では、デジタルズーム倍率に応じた、単位の異なる二種類の目盛りの表示態様の变化について説明した。しかし、実際の共焦点内視鏡システム500では、単位は二種類に限定されるものではない。例えば、図4(b)において、互いに隣接する目盛りL11~L19間にさらに微小な単位の目盛りを設けておき、倍率を上げることにより、該微小な単位の目盛りが目視できる程度に表示されるように構成されていても良い。

【0054】

以上が2次元の共焦点観察画像に関するスケール表示処理の説明である。ここで、前段画像処理部211によって所定の画像処理を経た2次元画像データを2次元画像用記憶部212に記憶させることなく、直接、出力画像制御部216、デジタルズーム部219を介して外部に出力することも可能である。これにより、共焦点光学ユニット50を用いて得られた画像をリアルタイムで観察することができる。

30

【0055】

次に、3次元画像に関するデータ(3次元画像データ)の生成、およびスケール表示処理について説明する。

【0056】

共焦点光学ユニット50をZ方向に微小移動させる形状記憶合金80は、ユニット駆動部81により駆動制御される。詳しくは、ユニット駆動部81は、術者等が移動ピッチ設定部230Aを介して設定するピッチに従って、共焦点光学ユニット50のZ方向の移動量(つまり、形状記憶合金80に印加する電圧の量)を制御する。ここで、ピッチを細かく設定すると、3次元画像データにおけるZ方向の解像度を高めることができる。また、ピッチを粗く設定すると、3次元画像を生成する際に使用されるデータ量が軽減され、処理の迅速化が達成される。

40

【0057】

共焦点光学ユニット50の移動量は、ユニット移動量検出部82によって検出される。ユニット移動量検出部82は、例えば抵抗値の変化等から移動量を検出する。そして、検出結果に対応する信号(検出信号)をプロセッサ200の信号処理部213に出力する。

【0058】

信号処理部213は、ユニット移動量検出部82からの検出信号に基づき、該検出信号受信時における現在の共焦点光学ユニット50の位置情報を生成する。そして、2次元画

50

像用記憶部 2 1 2 に一時的に記憶された 2 次元画像データを読み出し、該位置情報と 2 次元画像データを関連づける処理を行う。なお、信号処理部 2 1 3 には、観察深さ設定部 2 3 0 B が接続されている。観察深さ設定部 2 3 0 B は、モニタ 2 0 0 M に表示される 3 次元画像における深さ方向換言すれば光軸方向の長さ、つまり 3 次元画像における厚みを術者等が設定するために操作する設定部である。信号処理部 2 1 3 は、観察深さ設定部 2 3 0 B からの信号に基づいて、設定された観察深さに対応する 2 次元画像データに対して上記関連づけ処理を行う。

【 0 0 5 9 】

出力画像制御部 2 1 6 は、画像選択部 2 3 0 E から 3 次元画像を選択する制御信号を受信すると、信号処理部 2 1 3 に制御信号を送信する。該制御信号を受信すると、信号処理部 2 1 3 は、位置情報が関連づけられた 2 次元画像データを、順次、3 次元画像生成部 2 1 4 に出力する。

10

【 0 0 6 0 】

3 次元画像生成部 2 1 4 は、順次入力する位置情報が関連づけられた 2 次元画像データに基づいて 3 次元画像データを生成する。そして、生成した 3 次元画像データを、該生成部 2 1 4 内にある一時メモリに記憶する。また、生成された 3 次元画像データは、後段の 3 次元画像用記憶部 2 1 5 に記憶される。出力画像制御部 2 1 6 は、上記 2 次元画像に関する処理時と同様に、所定のタイミングで 3 次元画像生成部 2 1 4 から 3 次元画像データを読み出して、スケール合成手段 2 1 7 に出力する。スケール合成部 2 1 7 は、上記 2 次元画像に関する処理時と同様の処理を 3 次元画像データに施す。但し、ここでスケール合成部 2 1 7 がスケール用メモリ 2 1 8 から読み出すスケールデータは、3 次元表示態様に対応したデータであり、上記 2 次元画像データに重畳するスケールデータとは異なる。

20

【 0 0 6 1 】

スケール合成部 2 1 7 によりスケールデータを合成された 3 次元合成画像データは、デジタルズーム部 2 1 9 によって所定の倍率に拡大、縮小された後、モニタ 2 0 0 M に出力される。

【 0 0 6 2 】

図 5 は、上記の一連の処理を経てモニタ 2 0 0 M に表示された 3 次元画像の一例を簡略化して示す図である。図 5 に示すスケール S 3 は、図 4 (a)、(b) に示すスケール S 1、S 2 と同様にスケール設定部 2 3 0 F を操作することにより、任意の個数表示可能であり、かつ任意の位置に移動させたり、回転させたりすることが可能である。

30

【 0 0 6 3 】

また、図 5 に示すスケール S 3 は、互いに直交する三本の軸により構成されているが、これに限定されるものではなく、一本あるいは互いに直交する二本の軸のみからなる構成であっても良い。

【 0 0 6 4 】

モニタ 2 0 0 M に図 5 に示すような 3 次元画像が表示されている状態において、術者等は画像選択部 2 3 0 E を操作することにより、該 3 次元画像における任意の位置での断面画像を観察することが可能になる。以下、断面画像に関する画像データ (断面画像データ) の生成、および該データに対するスケール表示処理について説明する。

40

【 0 0 6 5 】

断面画像を表示させるにあたり、術者等は上記画像選択部 2 3 0 E に関する操作を行うだけでなく、図 5 に示すような 3 次元画像を観察しつつ、断面位置設定部 2 3 0 C を操作して、どの断面を画像として表示するかを設定する。詳しくは、出力画像制御部 2 1 6 は、画像選択部 2 3 0 E から断面画像を選択する制御信号を受信すると、図 5 に示す 3 次元画像に、断面位置を示す破線領域 C を表示する。術者等は、断面位置設定部 2 3 0 C を操作して、任意の断面位置を設定する。

【 0 0 6 6 】

断面位置設定部 2 3 0 C は、断面位置の設定に関する信号を 3 次元画像用記憶部 2 1 5 に出力する。3 次元画像用記憶部 2 1 5 は、断面位置設定部 2 3 0 C から該信号を受信す

50

ると、記憶している３次元画像データから該信号に対応する断面画像データのみを抽出し、出力画像制御部２１６に出力する。

【００６７】

出力画像制御部２１６は、断面画像データをモニタ２００Ｍの周期等所定のタイミングに同期してスケール合成部２１７に出力する。スケール合成部２１７は、上述した２次元画像データに対する合成処理と同様の処理を断面画像データに施す。

【００６８】

スケール合成部２１７によりスケールデータを合成された断面合成画像データは、デジタルズーム部２１９によって所定の倍率に拡大、縮小された後、モニタ２００Ｍに出力される。図６に上記の一連の処理を経てモニタ２００Ｍに表示された断面画像の一例を簡略化して示す。図６に示す断面画像は、例えば図５に示す３次元画像と並べて表示することも可能である。

10

【００６９】

以上が各表示態様に応じたスケール表示処理の説明である。なお、上記の各処理は、術者等によってスケールＯＮ／ＯＦＦ設定部２３０ＤがＯＮに設定されているときに有効に行われる処理である。スケールＯＮ／ＯＦＦ設定部２３０ＤがＯＦＦに設定されているとき、出力画像制御部２１６は、画像選択部２３０Ｅの選択に対応する画像データを直接デジタルズーム部２１９に出力する。よって、上述した一連のスケール表示処理は行われず、モニタ２００Ｍに表示される画像にはスケールは表れない。

【００７０】

20

以上が本発明の実施形態である。本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく様々な範囲で変形が可能である。

【００７１】

例えば、上記説明では、計測情報としてスケールを共焦点観察画像に重畳して表示すると説明した。計測情報はスケールに限定されるものではなく、微細な正方形の升目からなるグリッドであってもよい。

【００７２】

また、上記では、光ファイバ２０の射出側端面２１を二次元に移動させることにより生体組織Ｓを二次元走査する、走査型の共焦点光学ユニット５０を想定して説明したが、本発明に係る共焦点内視鏡システムの共焦点光学ユニットは、走査型に限定されるものではない。例えば、単一の光ファイバを二次元に移動させる代わりに複数の光ファイバを二次元配列する構成であっても良い。

30

【００７３】

また、上記では、レーザー光を励起光として使用し、生体組織からの蛍光を用いて画像生成していると説明したが、本発明に係る共焦点内視鏡システムは、一般的な照明光の生体組織からの反射光を用いて画像生成する構成であっても良い。

【図面の簡単な説明】

【００７４】

【図１】本実施形態の共焦点内視鏡システムの構成を示す図である。

【図２】実施形態の電子内視鏡の可撓管先端の内部の構成を示した概略構成図である。

40

【図３】実施形態の共焦点内視鏡システムにおけるスケール表示処理を説明するためのブロック図である。

【図４】図４（ａ）は、実施形態のスケール表示処理を経てモニタに表示された２次元画像の一例を簡略化して示す図である。図４（ｂ）は、２次元画像をズームした画像の一例である。

【図５】実施形態のスケール表示処理を経てモニタに表示された３次元画像の一例を簡略化して示す図である。

【図６】実施形態のスケール表示処理を経てモニタに表示された断面画像の一例を簡略化して示す図である。

【符号の説明】

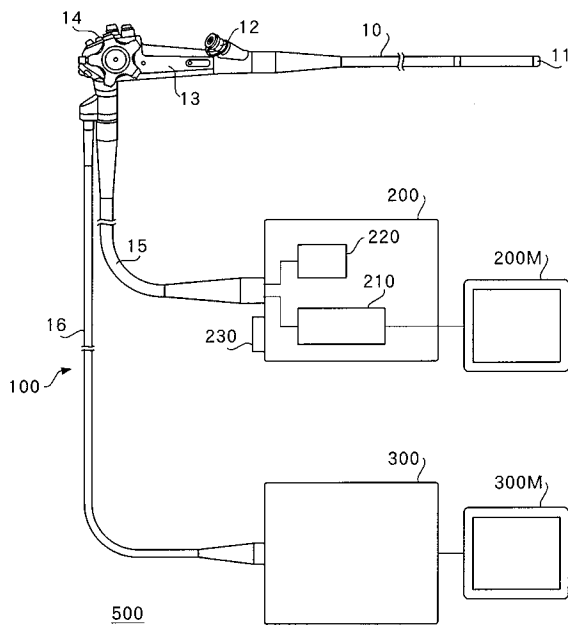
50

【 0 0 7 5 】

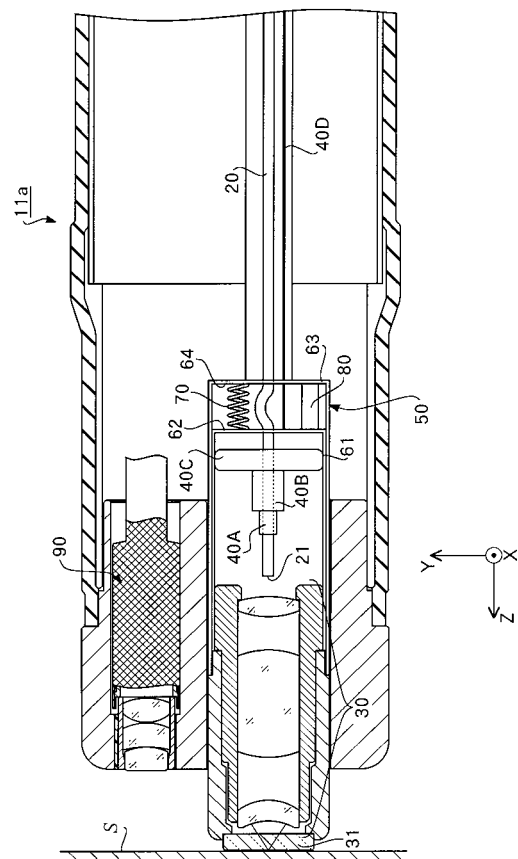
- 2 0 光ファイバ
- 2 1 射出側端面
- 3 0 対物光学系
- 5 0 共焦点観察ユニット
- 1 0 0 電子内視鏡
- 2 0 0、3 0 0 プロセッサ
- 2 1 0 画像形成・処理部
- 2 1 6 出力画像制御部
- 2 1 7 スケール合成部
- 2 1 9 デジタルズーム部
- 5 0 0 共焦点内視鏡システム

10

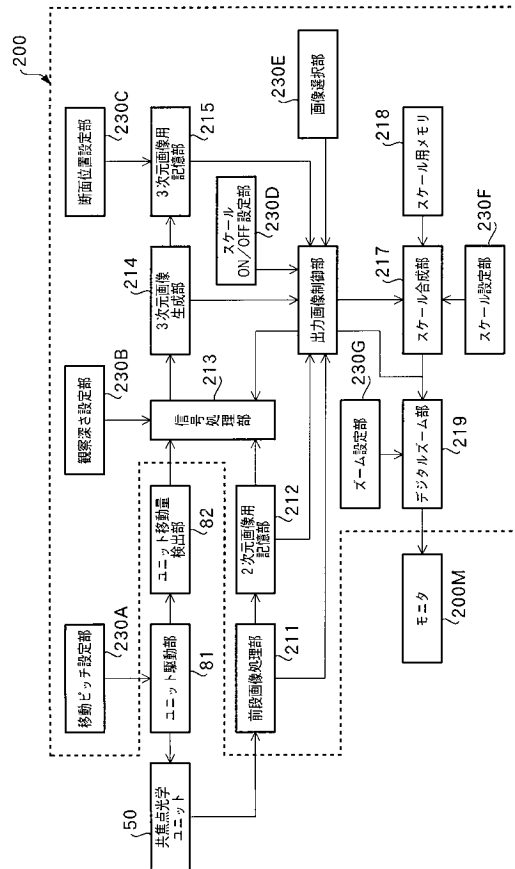
【 図 1 】



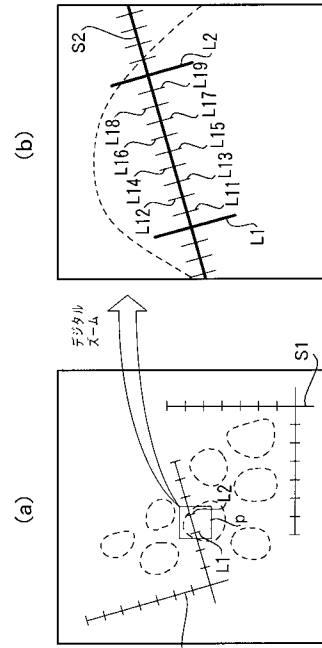
【 図 2 】



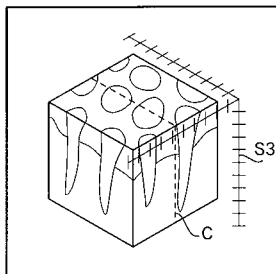
【図 3】



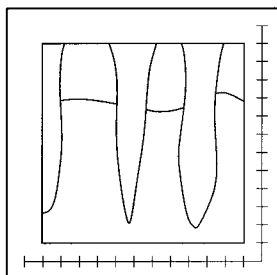
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

F ターム(参考) 2H040 BA01 CA07 CA11 CA12 CA22 CA27 DA18 DA42 DA56 DA57
GA02 GA11
4C061 CC06 FF40 FF47 HH51 LL02 PP12 PP13 RR06 RR17 WW03
WW04 WW12 XX01 XX02

专利名称(译)	共聚焦内窥镜系统		
公开(公告)号	JP2007275220A	公开(公告)日	2007-10-25
申请号	JP2006104029	申请日	2006-04-05
[标]申请(专利权)人(译)	旭光学工业株式会社		
申请(专利权)人(译)	宾得株式会社		
[标]发明人	佐野浩		
发明人	佐野 浩		
IPC分类号	A61B1/00 G02B23/26 A61B1/04 G01N21/17 G01N21/64		
CPC分类号	G02B21/0032 A61B1/00096 A61B1/00172 A61B1/00188 A61B1/0051 A61B1/042 A61B1/0669 A61B5/0068 A61B5/1076 G02B21/0044 G02B23/2423		
FI分类号	A61B1/00.300.Y G02B23/26.A A61B1/04.370 G01N21/17.620 G01N21/64.Z A61B1/00.511 A61B1/00.524 A61B1/00.525 A61B1/00.731 A61B1/00.735 A61B1/04 A61B1/045.610 A61B1/045.622		
F-TERM分类号	2G043/AA03 2G043/BA16 2G043/EA01 2G043/FA01 2G043/GA02 2G043/GB19 2G043/HA01 2G043/HA05 2G043/KA09 2G043/NA05 2G059/AA05 2G059/BB12 2G059/CC16 2G059/EE07 2G059/FF02 2G059/GG01 2G059/JJ11 2G059/JJ17 2G059/JJ21 2G059/PP04 2G059/PP06 2H040/BA01 2H040/CA07 2H040/CA11 2H040/CA12 2H040/CA22 2H040/CA27 2H040/DA18 2H040/DA42 2H040/DA56 2H040/DA57 2H040/GA02 2H040/GA11 4C061/CC06 4C061/FF40 4C061/FF47 4C061/HH51 4C061/LL02 4C061/PP12 4C061/PP13 4C061/RR06 4C061/RR17 4C061/WW03 4C061/WW04 4C061/WW12 4C061/XX01 4C061/XX02 4C161/CC06 4C161/FF40 4C161/FF47 4C161/HH51 4C161/LL02 4C161/PP12 4C161/PP13 4C161/RR06 4C161/RR17 4C161/WW03 4C161/WW04 4C161/WW12 4C161/XX01 4C161/XX02		
其他公开文献	JP4999046B2		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种共聚焦内窥镜系统，该系统能够显示测量信息，同时利用共焦观察图像所具有的高放大特性和高分辨率等特征。

ŽSOLUTION：共聚焦内窥镜系统由电子内窥镜和处理器组成。电子内窥镜具有共焦光学单元，该共焦光学单元利用照明光束照射活组织，以从来自活组织的光中提取来自指定位置的光。该处理器具有图像处理装置，该图像处理装置具有至少一个二维图像生成部分和一个测量信息合成装置，该二维图像生成部分用于从共焦光学单元的光束产生二维图像数据，该测量信息合成装置用于获得叠加在该共焦光学单元上的测量信息。图像数据使得至少一条指定的测量信息显示在显示图像中，并通过测量信息合成装置输出叠加在其上的测量信息的合成图像数据。测量信息合成装置根据共焦光学单元的图像拾取范围确定包含在显示图像中的测量信息的显示模式。 Ž

